

表紙のことは

大塚 嶺紀「手形三兄弟」

この作品は、急性リンパ性白血病と6年間の闘病の末に、14歳という短い命で天逝されました。大塚嶺紀くんの作品です。嶺紀くんは、ものづくりが大好きで、家族想いの青年でした。作品は、ご家族、病院スタッフの3カ所へ送った手形付きの年賀状で、手形が3つあるので「手形三兄弟」と名付けていました。家族想いの嶺紀くんが表現されており、治療中に病床上で1週間かけて、一生懸命に制作しました。完成した作品を持った記念撮影では、嬉しそうな笑顔を見せてくれました。嶺紀くんのご冥福をお祈りするとともに、掲載の承諾をしてくださいました。ご家族様に感謝の意を表します。

(担当 OT: 脇田)



今月の作品

本コーナーでは、表紙にご応募いただいた作品の中から毎月1点をご紹介します。



白石 結慎「なごみ」

この作品は美術の時間につくったものです。普段は見本そっくりにつくりたい気持ちがある彼ですが、今回のように自分なりのイメージがもてたときは、色づかいやパーツを置く位置など、細部まで工夫して作品をつくり上げています。「なごみ」の牛は新聞紙で土台をつくり、紙粘土を一つひとつ丁寧に貼りに付けたので、表面がとても滑らかな仕上がりになりました。特に耳の部分は、一度作り上げた後にまた取り外して作り直すほどのこだわりでした。周囲からは、「かわいい」、「癒される」との声が多く上がり、評判でした。

(担任・美術担当: 原)